

ふるさと稲瀬だより

第5号 令和3年3月30日

発行 / 稲瀬町自治協議会

稲瀬地区交流センター内

〒024-0041 北上市稲瀬町前田276

電話・ファクス 0197-65-2441

E-mail inase-kc@gol.com

「笑顔と活力に満ちた やすらぎの里」稲瀬町

「稲瀬地区地域計画」2021～2040 を策定

稲瀬町自治協議会では、稲瀬地区地域計画の策定のため、令和元年12月に策定委員会を設置し、昨年9月までの間、計7回のワークショップなどを開催し、町民の意見を集約しました。

私たちが20年後の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」や、これから地域で「変えなければならないこと」など、町民の思いを込めて策定した計画を掲載しますので、ご覧いただき、ご感想などを頂戴できれば幸いです。

稲瀬町地域計画（基本計画） 2021～2040

〔地域の将来像〕

●2040年の目指すべき地域像

『悠久の歴史・景観、実りの大地 笑顔あふれる
やすらぎの郷 稲瀬』

●私たちが2040年の地域に「残したいこと・伝えたいこと・大切にしたいこと」

- ・国見山・男山・樺山歴史の広場から見た美しい眺望
- ・ホテルが飛び交い、食の豊かさを与えてくれる農村景観
- ・国見山廃寺跡、樺山遺跡を中心とした歴史遺産とその文化を後世に伝える郷土芸能
- ・ほがらかで安心の地域コミュニティ

●私たちが2040年に向け、これから地域で「変えなければならないこと」

- ・個々の意見を尊重し、多様な視点・考え方を大切にします。
- ・特に、若者たちが参加しやすい仕組みを構築し、未来に向けた話し合いの場をつくっていきます。
- ・人口減少に対応した事業・取組みの見直しや、自治公民館・自治会・自治協議会の役割の見直しなどを進めることで負担を軽減し、必要な取組みに対して注力できる環境をつくります。

〔現在の人口・世帯数〕

●人口：785人

●世帯：278戸

(令和3年1月末現在)



[私たちの目標]

●地域の将来像の達成のために「2030年までに達成したいこと。」

1. 何歳になっても稲瀬で豊かに暮らせる、つながりがあるまちづくりを進めます

- ・子育て世代同士が交流できる場や地域で子どもを見守る仕組みをつくり、安心して子育てができる環境を整えます。
- ・コミュニティを生かし、日ごろのあいさつや声掛けを通じてちょっとしたときにお互いが助け合える関係性を構築します。
- ・世代交流やふれあいの場を増やすことで、年齢や性別、社会の壁をなくし、一人ひとりを大切な人として付き合えるやさしい地域をつくります。

2. 将来の担い手が地域で生き生き活躍できるような体制や風土づくりを進めます

- ・若い世代が地域活動に気軽に参加しやすい雰囲気づくりや事業の工夫を行います。
- ・若者の声に積極的に耳を傾け、その活動をさまざまな形で支援していきます。
- ・地域にある組織や役割を整理し、限られた人に負担が集中しないような体制を整えます。
- ・地域農業の担い手の高齢化や人材不足に対応するため、作業の集約化など効率のよい経営の仕組みづくりを進めます。

3. 豊かな自然環境や文化を未来へ継承していきます

- ・地域に伝わってきた郷土芸能などの文化や歴史に誇りを持ち、稲瀬らしさを大切に活動を進めます。
- ・自然景観をこれからも維持するための取組みを行うとともに、野生動物との共存を図ります。
- ・地域の自然や食を子ども達に体験させることで生きていく力を育みます。
- ・地域のことを知り学ぶ機会を持ち続けるとともに、その魅力を地区内外へ広く発信していきます。



[計画推進の方向性の整理]

●子ども・子育て世代のために

- 地域の特徴（どんな子どもが育ってほしいか） -
 - ・コミュニケーションを大切にし、お互いを認め合える子ども
 - ・何にでも興味をもち、関わろう、学ぼうとする子ども
 - ・他人の気持ちを大切にし、思いやりのある子ども
 - ・自然や食を大切にし、生きていく力を持つ子ども
- 現状の課題 -
 - ・子どもの意見、声をしっかりと受け止められる関係をつくっていくことが必要です。
 - ・自然体験や郷土芸能・伝統行事を大切にして、地域らしい学びの場をつくっていく必要があります。
 - ・学校や保育園とのつながりを深め、地域全体での子育て、教育に関する共通理解を持つ必要があります。
- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -
 - ・あいさつをスタートとして、一緒に遊ぶ、一緒に考える時間をつくり、より多くのコミュニケーションの機会をつくります。
 - ・これまで続けてきた行事や伝統芸能、そして自然や農業などの体験ができる場をつくり、生きる力を育む機会をつくります。
 - ・子育て世代が交流できる場、地域全体で子どもを見守る仕組みをつくり、安心して子育てができる環境をつくります。

●働き盛り世代・地域らしい働き方・暮らし方

- 地域の特徴 -
 - ・雄大な奥羽の山並みを望む、四季折々の豊かな景観を楽しむことができます。
 - ・自然の恵みと肥沃な土地により、豊かな農・食のある暮らしを楽しむことができます。
 - ・居住地域が適度にあり、日常的なゆるやかなコミュニケーションがあります。
- 現状の課題 -
 - ・豊かな景観資源を維持するため、自然環境の保護・整備を進める必要があります。
 - ・人口減少の中、地域のつながりをより大切にしていくことが必要です。
 - ・地域や社会の変化に対応した柔軟な地域づくりの仕組みの構築が必要です。
- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -
 - ・国見山、男山、樺山歴史の広場等北上市を代表する景観を守り育てる活動を進めます。
 - ・豊かな田園環境を維持する取組みや、ホテルや自然塾など自然環境をより楽しむための活動も推進します。
 - ・固定的な考え方にとらわれず、多様な価値観を大切にし、個々の取組みを応援できる体制をつくります。

●ご長寿世代・いろいろなちがいがある人のために

- 地域の特徴 -

- ・近隣地区と同様に人口減少と高齢化が進んでいます。
- ・日常的に野菜の分けあいや草刈り、除雪の手伝いなど、助け合いの近所づきあいがあります。

- 現状の課題 -

- ・歳をとっても可能な限り稲瀬で暮らし続けられるよう、日常的なコミュニケーションを活かした見守りの仕組みが必要です。
- ・軽作業をする場や集まって食事をする場など、高齢になっても集まれる、役割を持てる仕組みが必要です。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・顔の見える近所づきあいで何かしら変化を感じとれるコミュニティ、見守りの体制づくりを進めます。
- ・買い物や食事などが難しい人へ支援する取組みを地域内の企業・組織と連携をとりながら、できる範囲から進めます。
- ・地域で認知症等、支援が必要な人をサポートするための話し合いの場を定期的で開催します。
- ・多世代でのふれあいの場等、今の取組みや仕組みを活かしたつながりの場づくりを進めます。

●推進体制・負担軽減と新しい役割分担

- 地域の特徴 -

- ・人口減少の影響もあり、一人あたりの担うべき役割が増えています。
- ・行事によっては参加者を集めることも負担になっており、行事の見直しが必要な状況となっています。

- 現状の課題 -

- ・参加者を集めるものが難しい行事を中心に、事業の見直しや参加形態を自治会単位にするなど、参加方法の整理を行う必要があります。
- ・人口減少に伴い、ひとりの役員に負担が集中しない仕組みをつくる必要があります。

- これから5年間で重点的に取り組むべき事項 -

- ・体育行事の見直しや各種事業の開催頻度の見直し、事業の統合等を具体的に検討して、今後も必要な取組みについては、より充実させられる体制をつくります。
- ・自治会単位での役割を整理し、役員数の整理、会議数の削減につなげます。
- ・有償ボランティアの活用などの必要な取組みに対して報酬を支払うなど、担い手の確保に向けた新しい仕組みを構築します。
- ・若い世代の役員を選出し、若い世代が活躍できる仕組みをつくります。

